

# ミステリ読書案内

2023. 9. 5 発行元

第511号 伊藤 剛

<https://mystery-dokuan.com>

## 青崎「アンデッドガール・マダーファルス4」

7月に講談社タイガからシリーズ4冊目が出た。今回は短編集。『小説現代』に掲載したものに書下ろしを加えた五編の構成。TVアニメが放送されるようで、多くの人の目に触れる機会が広がったのは有難い。

### 物語を遡って…の話

前作までの物語の続きが今度はどう展開するのかと思って期待して手に取ってみたところ、今回は時間を遡って物語のゼロ時点を説明する内容だった。何しろ「アンデッド」＝「死なない人」の話なので、原点を辿るとかなりの時間を戻ることになってしまう。それがこの物語の面白味でもあるのだけれども。

第一話の『知られぬ日本の面影』は1897年。輪堂鴉夜と真打津軽と馳井静句の三人が出会って間もなくの頃の出来事。東京・上野で出会った小泉八雲が持ち込んできた怪談話のような現象に付き合うこととなった事件。この時点では鴉夜は風呂敷の中に包まれている形になっている。まだ「鳥籠」ではない。

### 平安時代まで遡ると…

第二話の『輪る夜の彼方へ流す小笹船』は平安時代の平将門、藤原純友の頃の話。庶民相手に占事、祈祷などを行う陰陽師のひとり蘆屋道

満とその傍に仕える鴉夜の姿が描かれる。京の都に登った鴉夜たちは安倍晴明や賀茂忠行などに会ったりする。この時代の貴族の生活に密着した部分もあり…。

やがて、鴉夜は成長し、蘆屋道満の秘密が少し明かされ、「不死の怪物」が作られていく過程が説明されていく。「不死」は簡単に手に入れられるものではないのだ。

### 津軽と静句の以前の姿は…

第三話『鬼人芸』と第四話『言の葉一匙、雪に添え』は、津軽と静句の出会い以前の姿を紹介してくれている。津軽の半人半鬼の成長ぶりであったり、静句と彼女の従具「絶景たちかけ」の訓練ぶりだったりが見かされていく。

このシリーズを順番に読んできた読者にとっては「なるほど、なるほど」と思える内容。本書から読み始めた人にとってはちょっと伝わりにくい話かもしれない。その点はどうしてもシリーズものの特徴なので仕方のないこと部分。

### 青崎有吾作品リスト

1. 体育館の殺人
2. 水族館の殺人
3. 風ヶ丘五十円祭りの謎
4. アンデッドガール・マダーファルス1
5. 図書館の殺人
6. ノッキンオン・ロックドドア
7. アンデッドガール・マダーファルス2
8. 早朝始発の殺風景
9. ノッキンオン・ロックドドア2
10. アンデッドガール・マダーファルス3
11. 11文字の檻
12. アンデッドガール・マダーファルス4

第四話の最後の部分で鴉夜と静句が襲われ、首と体が切断される場面になる。ここから、このシリーズの本論がスタートしたことになる。

### いよいよ体を探し求める旅へ…

第五話『人魚裁判』は、鴉夜・津軽・静句が日本を出発し、奪われた体を求めて北欧に到着する場面になる。そこで出会った人魚による殺人事件の真相を解き明かす役目が回ってくることに…。

第四話までは「本格ミステリ」らしさはほとんど出ていないが、この第五話だけは「謎解き」のスタイルになっている。青崎有吾らしさが発揮された作品と言っていいたいだろう。窮地に陥った人魚を三人は助け出すことができるのだろうか？

## 知念実希人「放課後ミステリクラブ」金魚の泳ぐプール事件」

6月にライツ社から出た本。児童書の扱いで、「小学校中学年以上」と書かれている。たまたま仙台の大型書店の棚で見つけて買ったもの。帯には「親子で楽しめる本格ミステリ」とあり、今後シリーズ化される予定のようである。次巻は今年の冬に出ることが予告されていて、今後の展開を期待したい。

何より絵がたくさん入っているのが楽しい。ミステリに初めて取り組む子どもたちにとってこのような雰囲気大切。建物内部の絵などは「本格もの」らしさの条件のようなもの。小学四年生の「ミステリトリオ」。主人公の柚木陸、スポーツ万能の神山美鈴、そしてイギリス帰りの探偵・辻堂天馬の三人組。校舎の一番端に秘密基地とも言えるべき探偵部室が存在することがちょっと不思議ではあるのだが…。この年最初のプールでの水泳の授業…と思ったら突然中止に。プールで大量の金魚が泳いでいたから。担任の真理子先生からこの謎を解くように依頼された三人組は、情報を集めに夏祭りの神社に出掛けることに。一通り調べたところで『読者への挑戦』が登場する。犯罪事件ではないので大がかりなトリックはない。いろんな事実と人間関係を分析して結論を導き出すという流れ。楽しんで読めるように工夫されている。もちろん一気に読める。